

教育実習事前模擬保育の「振り返り」の改善

井 口 美 和

The Reflection's Improve of the Imitation lessons

Miwa Iguchi

豊岡短期大学 論集

第 14 号 別 冊

平成 30 年 2 月 28 日 発 行

教育実習事前模擬保育の「振り返り」の改善

The Reflection's Improve of the Imitation lessons

井口 美和

Miwa Iguchi

はじめに

幼稚園教諭を目指す学生にとって「教育実習」は、保育が展開されている幼稚園という場において、実際に保育者が保育する様子を見聞し、幼児と直接に触れ合い、保育者として幼児と生活を共にしながら保育を展開する体験の場である。

文部省(現文部科学省)は1969(昭和44)年教員養成のための教育実習のあり方として、「教育実習は、教員を志望する学生が、教育現場に於いて、児童・生徒との接触をとおして、教師たるに必要な基盤を確立することを基本的な目標とする」と述べている。さらに、本校のテキスト¹⁾には、教育実習の目的として、大きく「①幼稚園を学ぶ、②幼児から学ぶ、③保育者から学ぶ、④自分自身について学ぶ、」の4点が挙げられている。

つまり、幼稚園教育実習は「幼稚園という教育現場で、幼児と共に生活しながら、実際の幼児の姿・保育内容・保育環境・保育者の役割などについて具体的に学び、教師たるに必要な基盤を確立すること。」となる。

教育実習は、これらの目標に向かい、実際の保育現場において学内での学びを実践に移して

保育を体験する学習の過程であり、貴重な学びの機会である。

しかし、学生は保育現場での実習に期待と併せて大きな不安を抱いているのも現実である。

そこで、少しでも不安を解消して実習に臨ませたいとの思いから、実習に向かう力を「実習力」²⁾として、その育成の工夫と考察を行っている。

筆者は保育現場で幼児とかかわり、多くの実習生を受け入れた経験はあるが、養成校の教員として、実習生を送り出すという経験は乏しいため、授業の工夫と改善が課題である。

本研究では「模擬保育」の振り返りアンケートを通して、その改善に焦点を当てての実践・考察を行った。

I 模擬保育について

実際に幼稚園等で、幼児を対象とする保育(=教育実習)に対して、学内で実際に幼児がいるという想定で行う保育を「模擬保育」と総称しているが、その方法・形態等は様々である。

1 実践方法

(1) 立案・実践

- ・ 学生一人ひとりが個人で立案し実践
- ・ グループで立案しグループ内の数人で実践
- ・ 学級全体で立案し個人またはグループで実践

※ その他の設定をしての実践等は割愛

(2) 振り返りの方法

- ・ 全体での意見交換
- ・ 紙面によるアンケート

(3) 教師の講評・事後指導方法

- ・ 学生の意見交換やアンケートを基に
- ・ 学生とともにVTRを観ながら

2 形態

(1) 対象となる幼児がいると仮定しての保育

- ・ 他の学生は、観察者(記録者)として見学

(2) 学生が互いに幼児役になっての保育

- ① 保育者役以外の学生が幼児役として参加
- ② 幼児役と観察者に分かれての実践

3 模擬保育で育つもの・育てたいもの

(1) 『保育を実践する力』

学外での教育実習は、2～4週間の実習期間において、活動・実施時間や形態(部分実習・全日実習等)・実施対象(学級内・学年全体・園全体)等の違いはあれ、保育を立案・準備・実践・評価する経験を積むこと、つまり「保育実践力を学ぶこと」を目標にしており、実際に幼児の前で先生として保育を体験することが一般的である。そのために、実習へ送り出す側として、『先生として保育を

行う(進める)』こと、『とにかく一人で保育ができる』こと、つまり幼児を対象に何らかの保育活動を立案・実践し、担当教諭などからの指導助言を受け、反省考察をし、改善して、次の保育につなげる保育サイクルを実践する力を未熟ながらも育成して実習へ向かわせることを、授業の目標の一つとして考えている。

そのため、授業内の模擬保育は、対象者は幼児ではなくても、「保育を立案・計画し、準備を行い、実践することによって、保育実践を体験すること。」を目標として、保育を展開する(進める)ことを強く意識しての授業展開であった。つまり、実践者(保育者役)の学びに焦点を当てての授業展開を計画実践していた。

また、保育の展開は、保育者が指導案通りに保育を進めるタイムスケジュール的なものではなく、ねらいがあつて、幼児とやり取りをしながら、幼児の興味関心の示し方や理解の様子などの反応に応じて応答的に展開していくものであることから、学生が幼児役として参加する形での模擬保育を実施した。

(2) 『幼児の発達や実態を理解する力』

模擬保育を実践し始めたところ、保育者役の保育展開に応じて、幼児役は保育されること(先生と一緒に遊ぶこと)を楽しみ、様々な反応を示した。その反応は、幼児レベルではなく、保育者役を気遣つての発言や行動(学生レベルの理解・反応)であり、保育はとてもスムーズに展開された。しかし、幼児役の反応

や行動は、幼児の年齢相応でなければ模擬保育を実践する意味が薄くなることから、「幼児役には幼児役としての心構えや学びがある」ことを意識させる授業展開を考える必要に気づいた。

実習においても就職後も、今後保育を展開する対象はおおむね3～6歳の幼児である。個人差はあるものの、年齢相応の発達・理解力・行動力などがある。つまり、保育者役の学生の説明不足・展開の曖昧さなどに対して、幼児レベルの反応が必要となる。これらのことを学生に気づかせることによって、幼児の「実態や発達の過程」、特に「言語能力（語彙・文章の理解力）」「運動能力（粗大・微細・協応性・巧緻性等）」や「遊び」「社会性（規範性・仲間意識）」などの具体的な学びになると考えた。

これらの気づきに伴い、アンケート用紙（振替り用紙）の内容も変化している。

(3) 『保育を振り返る力』

保育は「ねらい」に基づいて実践し、幼児の姿から、教師の援助・環境の構成・教材等を具体的に振り返り、次へ繋げていくサイクルの積み重ねである。ゆえに、模擬保育においても、教師役・幼児役共に「振り返り」を意識化させることがその育成につながる。

(4) 『自信と意欲』

また、今までの研究経過³⁾から、実習への不安を軽減し、保育実践力を高めるためには『自信と意欲』が大きな役割を果たしていることが検証されている。

そこで、本授業における模擬保育においても、具体的に幼児役の学生を相手に保育を体験することと併せて、他の学生の保育をする姿からの学びなどを通して、保育技術と共に『自信や意欲』を意識化させ、その育ちにつなげていきたいと考えた。

II 模擬保育の振り返りの変遷

1 模擬保育の目指したこと

前述のように、模擬保育を通しての学びは非常に大きいことから、とにかく「保育を展開する=保育を行う」という実体験をさせたいとの思いで取り入れた模擬保育であるが、その実践にあたって、授業で「保育をした（保育を受けた）」「終わった」で、完結しないような授業展開が必要であると考え、反省や気づき、改善点等を記録する方法を取り入れた。

このことにより、学生にも「保育をした」「終わった」で完結するのではなく、振り返りを次の保育につなげる保育サイクルを常に意識しての保育姿勢を育てたいと考えた。

また、最終的には、学内で自分が実践したり他の学生が実践したりした模擬保育の保育内容（指導案・指導方法・環境の構成・材料等）を改善し、学外実習で自分が実践できる保育技術・保育内容の資料にもしていきたいと考えた。

2 「振り返り」の経過とアンケートの改善

前述のように、模擬保育実施は、学生にとって実践すること自体の学びは大きいですが、「計画し実践を行った」で完結ではなく、「自分が計画した実践を振り返り、様々

なことに気づき、改善へつなげる」ことも大きな目的の一つである。

しかし、実践後話し合いや講評をする時間を十分に確保することが難しいため、学生へのアンケート方式で「学び・気づき・振り返り等の確認」を行い、アンケートの集約と併せて、講評や助言を記入して一覧表にまとめて学生へ還元している。

アンケートの方法は、全回とも、学生個人が模擬保育実践後に自分の感想や意見を記入し、提出するものである。

模擬保育を行い、振り返りのアンケートを実践していくに伴い、不備や改善点が明らかになり、改善を行ってきた経過が以下である。

なお、模擬保育は、1年に1回の実践であるため、年度による学生の実態の違いにより、反応の相違等があるが、これらについては今後の検討課題としていく。

(1) 第1段階 『とにかく実践』

幼児役の前で実践するだけで終わらせない

保育者として、幼児の前でとにかく保育を進める体験に重点を置いての模擬保育ではあるが、実践をした参加しただけで終わらせないように、保育者役・幼児役共に、反省・感想を記入するアンケートを実施。

① 模擬保育実践方法

出席番号順に4～5名でグループを編成対象・保育内容はグループで検討実施

② アンケートの様式

- ・ 教師役・幼児役共に、同じ用紙に反省・感想についての質問項目を設定し、各自記入

- ・ 質問項目：ねらい・内容・指導方法・環境の構成
- ・ 回答方法：適切・不適切の選択
- ・ 要検討は、内容を記入

③ 集約結果

- ・ 要検討について具体的記述は少なく大部分は適切・不適切の評価のみ
- ・ 幼児として参加しての感想も少ない

④ 考察

- ・ 適切・不適切を選択で終わり、具体的な感想等の記入にはならなかった。
- ・ 幼児視点の感想が少ないのは、年齢設定や幼児役への指導不足が要因ではないか。
- ・ 「ねらい」をたて、「ねらいに向かって」の実践をという教師の授業姿勢が強く、保育する楽しさ、保育に参加する楽しさが意識されていない質問項目であった。

(2) 第2段階 『幼児役も焦点化』

幼児役にも視点を

- ・ 対象児の年齢設定を明確に
- ・ 参加しての感想の視点変更（楽しかったか等）
- ・ 文言・表現の調整

模擬保育は保育者役を経験する側だけではなく、幼児役の反応や行動も学びにつながることから、指導計画段階から対象児の年齢を明確に設定し、幼児役の学生の意識を高めるようにした。幼児役を行うためには該当年齢幼児の実態を把握しての反応・保育参加をしなければならぬため、それぞれの年齢の発達の学び

を意識させるようにした。

また、「ねらい」以外の項目についても、質問項目が適切かどうかの他に「よく考えられていたか」「わかりやすかったか」等に細分化すると共に、園児として参加しての項目を「楽しかったか」にするなど、表現を工夫し文言も配慮した。

表-1 集約後の学生への配布プリント

講評時間が取れないため、実践グループごとに、アンケートの項目別に回答を集約し、教師のコメントは書体を変えて付記。

① 模擬保育実践方法

- ・ 幼稚園見学の際に、同じ学級を見学した学生を同グループにし、見学学級を想定して模擬保育を実施
⇒対象年齢が明確になる
- ・ 幼児役に、「幼児の発達過程・姿」を意識させるために、対象児を確認して実践

② アンケートの様式

- ・ 教師役・幼児役共に、同じ用紙に反省・感想の質問項目設定し、各自が記入
- ・ 質問項目：何歳児想定という点を明記
ねらい・内容・指導方法・環境の構成
追加：園児としての感想（楽しかったか）
- ・ 回答方法：適切・不適切の選択
要検討は、その内容を記入
- ・ 質問の文言・表現も、やや柔らかく

③ 集約結果

- ・ 前年度と比べて文言での記入が多い
- ・ 年齢を意識したコメントもある

④ 考察

- ・ こちらの意図する何歳児という点はまだ薄い年齢を明確に設定したため、教

材や環境の構成等のコメントにおいて、年齢を意識していることがうかがえる。

- ・ 指導方法・教材・指導案等については以前よりも具体的な内容の記入が増えた。
- ・ 教師役・幼児役共に前年度に比べて保育を楽しんでいる様子が見える。
- ・ グループ編成を考慮したため、教師役は対象を明確かつ共通化し、イメージを共有できたことも保育の活性化に繋がったと考える。
- ・ 質問項目等の柔らかさのせい、筆者自身が「ねらい」を強調しすぎないように意図したせい、コメントが多い。

(3) 第3段階 『幼児役も焦点化』
振り返りの視点の違いを明確に

- ・ 質問用紙・質問項目の分割
- ・ 項目・表現・文言の整理
- ・ **事前・事後の明確化**

表-2 一つの実践者グループの集計である

① 模擬保育実践方法

前回と同じ

② アンケートの様式

- ・ 用紙を「実践指導を行って」と「実践指導に参加して」の2枚に分け、それぞれの立場で記入する別様式にした
- ・ 質問項目：事前・事後に分類
事前の心配・悩みや工夫が事後のどのような学びにつながったかを考え、事後の学び・自己評価が自信につながるようにした

特に、事後は課題的なことと併せて、「学んだこと・よくできた点・自信につながったこと・課題・他からの学び

等」実習に前向きになり『実習力』⁴⁾を高めるような質問にした

- ・ 回答方法：具体的にその内容を記入

③ 集約結果

- ・ 記入する立場が明確になったため、特に実践しての回答において、自分事としての反省や気づきが具体的に記入されている

- ・ 全体的に文言での感想の記入が増加

④ 考察

- ・ 用紙・内容を別々にしたので、振り返りにおいてそれぞれ視点や立場の違いを明確に意識して記入されている。
- ・ 保育を具体的に考えることができるようになってきている（教材や・教材を出すタイミング、シミュレーションの必要性等）。
- ・ グループで話し合い感想等を整理する方法も今後検討の余地がある。

(4) 第4段階 『保育を振り返り次へつなげる』 質問内容をポジティブに改善

前回の様式を継続。

しかし、質問項目は、保育を前向きに考えられるように改善した。

表-3 一つのグループに対しての、実践者・幼児役双方のまとめの集計である。

① 模擬保育実践方法

前回と同じ。VTR撮影を実施

② アンケート様式

- ・ 質問項目：質問の方向を前向きに
事前：楽しみだったこと・努力したこと
事後：心が通じたこと・楽しかったこと・自信になったこと

③ 集計結果（未掲載の回答も含めて）

- ・ 幼児役の学生が、保育者が援助する際に「言葉を添えて」くれた、「名前を呼んで物を渡してくれた」等の、保育者との一人一人のかかわりが嬉しかったという具体的体験を多く記入している。

④ 考察

- ・ 質問の表現を前向きにしたことで、回答することが具体的に書きやすくなったと考える。
- ・ 「嬉しかったこと」の項目に対して、率直な感想として、褒められる・認められた経験が記入されており、具体的な幼児とのかかわり方を実践的に学ぶことができている。さらに、それらの事項が「参考にしたかったこと」とつながり、次の実践で活かされることが期待される。

実践後の短時間での反省ではあるが、VTRを見せることで、ポイントを確認しあうことができた。

III まとめ

1 改善の意図とそこから見えてきたもの

(1) 模擬保育に対する意識の変化

「反省から振り返りへ」

近年様々な場面で「保育の振り返り」という言葉を耳にするようになった。保育に携わってきた筆者にとって、保育の反省は欠かせないもの、言葉は「反省」でも「振り返り」でも保育を実践していくうえで、その目指すことに違いはないとの考えで保育サイクルを実践してきた。

しかし、保育者を目指す学生を養成する立場として、その相違を確認した。「反省」は可否を考えることが中心であるのに対して、「振り返り」は学びの確認と次へつなげる意味が強いという違いを確認した。

また、学生の立場として「反省」といわれる場合と「振り返り」といわれる場合の受け取り方の微妙な違いにも気づき、意識的に「振り返り」を使用するようにし、アンケートも「振り返りの」一環として位置付けて改善を行ってきた。

「幼児役の学び」

学外実習の前に互いに幼児役をしての模擬保育を行うことは、幼児の発達過程を意識して行動を考え実践する学びにつながる。この気づきが、幼児役のコラボレーションへつながった。

また、保育者役の働きかけで、嬉しさをはじめ様々な感情を抱き、そのことを通して教師の援助の意味を確認できる様になってきている。

「保育の楽しさ・保育を楽しむにする」、

第3段階で、質問項目をポジティブに改善したことにより、学生の意識が「自信」や「他の学生からの学び」にも向き、保育の楽しさを感じ、実習への期待にもつながってきていると考える。

IV 今後に向けて

限られた時間での模擬保育において、学びを確認し、深める方法として始めたアンケートである。質問方法・項目・文言・スタンス等を改善することで、学びが大きくなってき

ている。しかし、対象学生は毎年変わるといいう実態を考慮しながらさらに改善をしていくことが必要と考える。

また、保育者役同士で振り返り等を交流し、良さを認め合い改善点を探るなどのグループワークによる取り組みや、講評時間の確保等も検討課題である

そのためには、模擬保育の形態として、教人のみが計画立案・実践に取り組みその他の学生は、それを観察し、意見交流しながら振り返る方法や、観察者が細かく記録し考察しあう方法など、模擬保育の実践や振り返り等について、今後も改善を図っていく必要があると考える。

引用文献

「教育課程の質的水準の向上」

文部省(現文部科学省) 1969年
教員養成のための教育実習のあり方

「幼稚園教育要領」

文部科学省 2008年

脚注

1) 田治米富子他

「幼稚園教育実習事前・事後指導」

豊岡短大発行 2017年

2) 3) 4) 井口美和 秋山有美子

「実習力アップにつながる実習事前指導」

日本保育学会 第69回・70回

大会発表論旨集

表-1

実践指導を見学して 『いちご』グループ

ねらい ・ 自分のイメージしたものを表現して楽しむ。 ・ 工夫していく中で創造性を豊かにする。

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 3歳児に適切だったか & その理由：一部省略 適切15 それぞれが好きなものを表現できた 自由性が有りイメージしたもの表現でき楽しいねらい 微妙2 達成されたか & その理由：一部省略 達成された 3 個々に好きなものを作っていた 他の子ども達の作る様子を見て創造力を膨らませた 創造性と想像性の整理 見立ての時期 工夫の時期 微妙で済ませない
内容	<ul style="list-style-type: none"> 3歳児に適切だったか & その理由：一部省略 適切4 好きなものを自由に表現し3歳時が自由にできるものだった 形の絵本からの導入が良い 貼る作業が良い簡単な内容 よく考えられていたか：一部省略 2 絵本を読んだ後の席のつき方がグダグダになってしまい子ども達の動きに戸惑いがあった 園児として参加して楽しかったか：一部省略 それぞれが自分の作品を作ることができて良かった とても楽しかった9 楽しかったが早く終わり飽きた 先生が怖かった 自由の楽しさ 自由に考える手がかりを 何かに見立てる 教師主導と自由度 教材のしぼり方を探し学び多く持つ
指導方法	<ul style="list-style-type: none"> 全体の流れ：一部省略 子ども達を誘導するときの声かけが難しい 製作終了後バラバラになりいつの間にか終わっていた 詰めが甘く準備不足 説明のわかりやすさ：省略 教材の提示方法：省略 全体と個のバランス：省略 言葉使い・表情など：省略 その他 周りが見えていない 子どもの発言などで言葉かけを変化させた臨機応変に対処する 自信が無いのかなと思った ねらいを意識・シュミレーション 作品の評価(上手・下手で済ませない) 努力点・工夫点・芽生え・途中経過の認めを) ≠ 褒め殺しではない 臨機応変に対処するため必要なこと 様々なシュミレーション 最悪の場合 見本のサイズ～見やすさ 提示方法 ボードの活用 幼稚園と保育園の言葉の違いは無いはず 正しく丁寧に綺麗な言葉 見本の見せ方と量 お話ししてもらおう 言葉以外にも配慮する(記録・指導案・態度)
教材	<ul style="list-style-type: none"> よく考えられていたか：一部省略 舞台の準備が間際過ぎた パーツの画用紙がバラバラになってしまったのでケースに入れたほうが良い 考えられていた1 2 3歳児に適切だったか：一部省略 画用紙が糊だらけになってしまうことが想定される 形に関心を持たせることができた 適切5 表現・創造性が豊かになり良い 澱粉糊を使う工夫も 使うものも少なく良い 3歳児には少し小さい 工夫 教材～教師の感性 感性を磨く 作品を掲示した場面を想像してみよう 様々な教材・指導を学ぶ 教材の出し方 タイミング セット方法 ～ 一人の教師にできる限界 の1 糊台 セロファンテープ ガムテープ ボンド 教師が特性・扱い方を知る
環境構成	<ul style="list-style-type: none"> 3歳児に適切だったか：省略 ねらいに対して最善だったか：省略 適切に再構成がなされていたか：省略 ねらいに応じての工夫を 正面をどこにするか 机の配置 席を固定することの良し悪し 「環境の構成」とは????
指導案	<ul style="list-style-type: none"> 実態を適切に把握していたか：一部省略 戸惑いなくスムーズに進行できていた 5 実際の動きも良い 細かく考えられている2 悪いパターンも想定すべき ねらい・環境の構成・援助の適切さと整合性：一部省略 製作準備や子ども達への対応を細かい部分で修正していく必要がある 良かった 環境の構成がもう少し詳しいと良い 実際の動きにつながる文章になっている 援助が不足 丁寧に作成されているか・わかりやすいか：省略 全援助・声かけの細かい配慮を 担当者の分担・明記 ～ その場で、何をするかを整理する シュミレーション 片付けまで考えられているが、片付け方法なども考えて明記する

指導方法 ～ 見本によってきっかけが作れる 見本を模倣する

案 マグシートで大きめの丸・四角等を作る⇒いろいろなものに見立てボードに貼る⇒幼児と考えながら形にする
⇒幼児が机上で色々なものの形を作る⇒友達と見せ合う⇒糊で貼る⇒作品を見せ合う 等様々な展開方法が有

表-2

実践実習を行ってのまとめ 3歳児 赤組

活動のねらい 歌に合わせて友達と一緒にいろいろな動きをし、元気よく体を動かす楽しさを味わう

事前	<p>自分自身が心配だったこと 保育技術・ピアノ ・自分の動き 展開・時間配分・スムーズに進められるか その他・急に動きを言われた</p>
	<p>自分自身が悩んだこと 説明方法・方法 役割り・分担 言葉・3歳児に対しての言葉づかい</p>
	<p>自分自身が工夫したこと 環境の構成・年齢に合わせて転調しなかった・散歩にあわせてのコースづくり 教材・「さんぽ」 内容・「さんぽ」を中心に多くのことを考えた</p>
事後	<p>自分自身が学んだこと シュミレ・シュミレの大切さ・時間配分 事前把握・事前に知っておかないと難しい 教材研究・蜘蛛の巣の危険・道具をどのようにすればよいか</p>
	<p>自分自身がよくできたと思う点 計画・計画時に積極的に意見を出した 動き・楽しくするために手拍子や歌を歌う・とっさの問いかけに答えられた</p>
	<p>自分自身の自信になったこと 技術・ピアノのカバー方法（片手・歌う） 度胸・大勢の前に立ち話す事</p>
	<p>自分自身が今後重点的に学習しなければならないと思った事（例 幼児理解 保育技術 保育知識） 保育技術・ココソトいう時に幼児をひきつける・その場をもっと楽しめるようなこと 幼児理解・年齢に対して何がっているのか</p>
	<p>グループの友達の実践から学んだこと 保育技術 話し方・声の調節 説明の仕方・簡単な言葉で伝える大切さ2</p>

表-3

3歳児キャンディ組 じゃんけん列車

活動のねらい

- ・じゃんけんのルールを理解し、友達を応援しながら一緒に楽しんでもらう。

園児として活動に参加して

<p>心がけたこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3歳児になりきる・らしい動き 6 ・月齢の低い子・騒ぎすぎない・座り方 ・積極的に参加する・ルールを理解すること 3 ・楽しそうにやる ・先生の話聞く・返事をする ・そわそわするところはするし、話を聞くところは聞く <p>嬉しかったこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 声掛け ・一度認めたらうてで注意していた 2 ・ふざけているとすぐ注意してくれた(見てくれている) ・絵本・手遊び時に横の先生が目を向けてくれたり、スキップをしてくれた ・「頑張ったね」と言いながらメダルをくれた 3 ・宇宙人の顔(ほめてくれた) ○ その他 ・負けてくやしという言葉にリベンジの場をくれた ・参加者全員にメダルをくれた・色の選択 7 ・手遊びを先生がほめてくれた(認めてくれた) ・楽しかった・ルールの理解ができた・全員がピアノを弾いていた <p>先生にお願いしたいこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ピアノの練習を 2 ・先生が積極的に「がんばれ」と声掛けした方がねらいに近づくことができると思う 2 ・一人ていたが目を向けてくれなかった(配慮事項にはあったのに) ・先生の内緒話は不安になる <p>参考にしたいと思ったこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・導入の方法(内容に関連する絵本⇒手遊びで落ち着かせて) 4 ・話に変な間が無く集中してスムーズに進んだ 3 ・テンポがあった(なぜテンポがあったのか) ・声の大きさ 2 ・楽しそうにしているところ 笑顔 2 ・保育者が名前を付けていた ・みんなにメダルをあげるという公平な考え ・3人の連携が取れていた 2 ・しっかり配慮しほめたり言葉をかけていた(なぜ) 2
--

アドバイスを具体的に記入

<p>内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時間が余ったので内容を増やせたのではないかな ・ピアノは明るい曲に <p>指導方法(流れ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ピアノを間違えようと雰囲気壊る ・指さしが多すぎる <p>指導方法(言葉)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わかりづらい言葉があった 3・ゆったりとした話し方を <p>環境の構成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・柱で死角ができる(どうするか)

保育者として実習を行って

<p>事前</p> <p>楽しみだったこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・じゃんけん列車の盛り上がり ・子どもと一緒にじゃんけん列車を楽しむこと <p>努力したこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絵本の読み聞かせ・周りを観るようにした ・ピアノ・メダル製作 <p>悩んだこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ルール説明をどうわかりやすく伝えるか ・興味の引きつけ方・配慮の仕方 <p>事後</p> <p>心が通じた事</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絵本で「出発進行」と一緒に行ってくれた 3 <p>楽しかったこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一緒にじゃんけん列車を楽しめた(保育者・幼児) 3 <p>自信になったこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絵本の読み聞かせ ・子どもと一緒に声を出す事 ・もめている子に気づくことができた <p>今後に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉の表現(幼児にわかる言葉・すらすらと) ・先生が勝ってしまった時の対応 2 ・余った時間の対応・ピアノ <p>学んだこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・声掛けのサポート ・絵本の読み方とタイミング ・すーっと笑顔での幼児への対応 <p>井口より</p> <p>ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内容として具現化する(取り入れる) 『ルールを理解し』 説明方法・内容の具体化 じゃんけんの説明・列が切れる・走る 『友達を応援する』 ↑の配慮事項 幼児の姿 ・してもらう????? 味わう・しようとする・身に付ける 関心をもつ・育てる・高める・味わう 楽しむ <p>指導案 もう少し様々な事を想定し細分化</p> <p>教師の援助</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認めてくれる喜び(視線・ほめる・タイミング) ・具体化(負けた子への声掛け) ○適切に配慮できた(指導案確認・事前練習) ○ゲーム中の保育者は? 一緒に楽しむが保育者としてするべき事 ○教師が勝った時? 教師が勝つのは悪い事? 時期・経験等 対等な付き合いも必要 <p>教材研究</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メダル(ご褒美)の意義と功罪 良さと影響 <p>環境の構成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・死角の対応(使用場所の伝達と確認)
--